

IT 社会に求められるセキュリティ技術

Information Technology Supporting Secure Modern Society

IT(情報技術)社会においては、物という資産だけでなく情報という資産が高い価値を持っています。物理セキュリティと情報セキュリティは、ともにこれら資産の安全を確保して人々に安心を与え、更にこれら資産のリスクを低減して新たな活用の道を切り開きます。

物理セキュリティは社会の安全を支える技術です。顔照合などの個人認証技術、施設へのアクセスコントロール、不正行為の抑止と追跡を目的とした映像監視などの技術が、社会のインフラを支えています。

一方、情報セキュリティは、情報資産や情報システムの安全を支える技術です。情報セキュリティのコア技術は暗号技術であり、インターネットを介した商取引などを安心して行うために必須の技術です。暗号技術はLSI、ICカード、コンピュータなどに実装されて提供されます。また、ネットワークセキュリティ技術や情報システムを安全に構築し運用する技術も必要です。

経営環境の変化が激しい現代では、企業はリスク管理に最優先で取り組んでおり、企業活動にはセキュリティ技術が不可欠です。例えば、顧客情報は扱いを誤ればプライバシーの問題や事業の存続を危うくする問題を引き起こしますが、適切に保護し有効に活用すれば、大きな顧客満足を生み出します。公共団体のホールや資料館などでは、施設が安全に保たれ、かつニーズに合わせて最大限に活用されるために、セキュリティ技術が貢献します。一般家庭においては、DVD、デジタル放送、インターネットショッピングなど、セキュリティ技術を使った新たな製品やサービスが生活を便利にしています。

この特集に掲載した論文をはじめとする東芝のセキュリティ技術は、社会や企業、個人が築いた資産の安全を確保し積極的に活用するために、今後ますます重要になる技術です。



高岡 博史
TAKAOKA Hiroshi